

29. 熊本大学大学教育統括管理運営機構（旧大学教育機能開発総合研究センター）改善計画書

領域	改善計画（H27. 3. 31現在）	改善状況①（H27. 12. 1現在）	改善状況②（H28. 5. 31現在）
研究	（法人評価までに改善する計画） ミッションについて再検討し、センター教員として研究の在り方や組織的な取り組みを共同研究などを含め検討する。	センターの設置目的である「教養教育を含む大学教育について調査、研究及び開発を行う」ことに関し教員はそれぞれ精力的に取り組んでいる。本学の第三期中期目標期間では重点的な人員、スペース及び予算の配分方針を打ち出しており、現センターで行っている研究については関係する各部局等で行い、少ない人員で共通教育の内容を管理することに特化した新しい組織に改編する計画である。	センター所属専任教員は、希望する部局に移動した上で共通教育の内容を管理することに特化した新しい機構「大学教育統括管理運営機構」を6月1日設置に向け準備を進めた。これまでの研究については、移籍先部局で継続することにした。
	（2年間で改善する計画） センターとしての研究課題を定め、取り組みを開始する。	第三期中期目標期間の重点的な人員、スペース及び予算の配分方針に基づき、少ない人員で共通教育の内容を管理すること、多様化せざるを得ない入試方法への対応、膨大な保有データを解析するIR等に特化した新しい組織に改編する計画である。新たな組織のミッション、業務等を至急検討するため、現センター内に空席となっている准教授を補充することとした（現在、公募中）。	センター所属専任教員は、希望する部局に移動した上で共通教育の内容を管理することに特化した新しい機構「大学教育統括管理運営機構」を6月1日設置に向け準備を進めた。新機構設置に伴う規則整備、教養教育の実施体制と教科集団の再構築等新しい機構を中心とする教育の体制の構築を行った。
	（次の組織評価までに改善する計画） 経年的に取り組み状況を検証し、よりよい在り方を検討・実施する。	第三期中期目標期間の方針に基づき、本センターの行動計画を立て、それに基づき現在公募中の准教授に加え、教授を公募し、両者を中心に新しい組織設置に向けて、ミッション、業務等詳細に検討することにした。	センター所属専任教員は、希望する部局に移動した上で共通教育の内容を管理することに特化した新しい機構「大学教育統括管理運営機構」を当初専任3名（教授2、准教授1）で6月1日設置に向け準備を進めた。新機構設置に伴う規則整備、教養教育の実施体制と教科集団の再構築等新しい機構を中心とする教育の体制の構築を行った。
社会貢献	（法人評価までに改善する計画） ミッションについて再検討し、センター教員として社会貢献の在り方や組織的な取り組みについて検討する。併せて、体制を整える。	本センターの設置目的から、社会貢献に関する本センターミッションは教養教育を含む共通教育を通して優れた人材を輩出すること及び社会人に対し高等教育機関として学修の機会を提供すること、そのための教育システムやカリキュラムの開発である。共通教育の内容と質を保証するための管理運営業務を新しい組織に移行し、調査研究開発業務は各部局に移行した上で、現センターは廃止することとした。	共通教育の内容と質を保証するための管理運営業務を新しい組織「大学教育統括管理運営機構」と「教養教育実施本部」に移行し、調査研究開発業務は各部局に移行した上で、現センターは廃止することとした。教育の質保証に向けて検討を開始した。
	（2年間で改善する計画） ・基本方針に基づいて研究センターとして組織的に社会貢献を実施する。	教養教育を含む共通教育を通して優れた人材を輩出すること及び社会人に対し高等教育機関として学修の機会を提供することを社会貢献と捉え、新センターのミッション、業務等に反映すべく新センターの中核を担う准教授を公募により募集することとした。	教養教育を含む共通教育を通して優れた人材を輩出すること及び社会人に対し、高等教育機関として学修の機会を提供することを社会貢献と捉え、「大学教育統括管理機構」設置に向けての準備と教養教育における四学期制導入及び新しい共通教育の内容についての検討を開始した。
	（次の組織評価までに改善する計画） 経年的に取り組み状況を検証し、よりよい在り方を模索・実施する。	教養教育を含む共通教育を通して優れた人材を輩出すること及び社会人に対し高等教育機関として学修の機会を提供することを社会貢献と捉え、新センターのミッション、業務等に反映すべく新センターの中核を担う准教授を公募により募集することとした。また、現センターの行動計画を作成し、空席の教授を公募し、両名を中心に新しいセンターを当面運営し、検証・軌道修正することにした。	教養教育を含む共通教育を通して優れた人材を輩出すること及び社会人に対し高等教育機関として学修の機会を提供することを社会貢献と捉え、「大学教育統括管理機構」設置に向けて新しい体制の構築と教養教育における四学期制導入及び新しい共通教育の内容についての検討を開始した。
国際化	（法人評価までに改善する計画） ミッションについて再検討し、センター教員として国際化への対応や組織的な取り組みについて検討する。併せて、実施要領を作成する。	本センターの業務から、国際化に対応した教育カリキュラムや教育内容を構築することが求められる。平成28年度に新組織を設置し、当該業務は新組織のプログラム管理室に移行するとともに現センターは廃止することになった。したがって、実施要領を作成する意味はなく、作成はしていない。ただし、国際化に資する現行センター開催の21世紀型大学教育セミナーの実施計画を平成27年6月開催センターミーティングにおいて策定し、平成28年1月及び3月に開催することとした。	特任教員（2名）を採用し、新機構「大学教育統括管理運営機構」入試戦略室に移行する準備を進めるとともに、グローバル教育カレッジと協力して平成29年度グローバル・リーダーコース入学生選抜の準備に当たった。
	（2年間で改善する計画） 実施要領を踏まえ、組織的な取り組みを行う。	第三期中期目標期間では重点的な人員、スペース及び予算の配分方針を打ち出しており、少ない人員で共通教育の内容を管理することに特化した新しい組織に改編する計画である。平成28年度に新組織を設置し、現センターは廃止することになっている。新組織の中核を担う准教授を公募により補充することとした。	新機構「大学教育統括管理運営機構」への円滑な移行のための準備を進めるとともに、教育の国際化に向けての検討を始めた。
	（次の組織評価までに改善する計画） 経年的に取り組み状況を検証し、よりよい在り方を模索・実施する。	第三期中期目標期間の本学の方針に基づき、現センターの行動計画を立て、それに基づき空席となっている教授を公募し、現在公募中の准教授とともに新しいセンターに円滑に移行するとともに、共通教育における国際化の一つとして四学期制下での実施体制等を検討し、平成29年度実施、31年度定着を目指すこととした。	新機構「大学教育統括管理運営機構」への円滑な移行のための準備を進めるとともに、教育の国際化に向けての検討を始めた。加えて専任教員（教授）の人事を行い、機構を中心とする新しい教育体制を整えた。

領域	改善計画（H27. 3. 31現在）	改善状況①（H27. 12. 1現在）	改善状況②（H28. 5. 31現在）
その他 （男女共 同参画）	（法人評価までに改善する計画） ミッションの再定義を行い、研究センターとして独自の取り組みや全学の取り組みなど組織的な実施要領を作成する。	教員採用時の性差別をしないことは言うまでもなく、また、本センターの設置目的からはジェンダー等の現代社会が直面する課題について共通教育へ取り込み方を検討することにある。平成28年度に新センターを設置し、当該業務は新組織のプログラム管理室に移行するとともに現センターは廃止することになった。したがって、実施要領を作成する意味はなく、作成はしていない。なお、男女共同参画の精神に則って新組織の中核を担う准教授、教授の公募を行うこととした。	男女共同参画の精神に則って新組織「大学教育統括管理運営機構」の中核を担う教員の公募を行った。また、旧センターの女性教員の出産・育児への配慮を行っている。
	（2年間で改善する計画） 研究センターとして独自の取り組みを実施する。さらに、全学の取り組みなど対応して取り組みを実施する。	平成28年度に設置する新組織の中核を担う准教授、教授の公募を男女共同参画の精神に則って行うこととした。	平成28年度に設置する新組織「大学教育統括管理運営機構」の中核を担う教員の公募を男女共同参画の精神に則って行った。
	（次の組織評価までに改善する計画） 経年的に検証・総括し、実施要領を見直す。	平成28年度に設置する新組織の中核を担う准教授、教授の公募を男女共同参画の精神に則って行うこととした。	平成28年度に設置する新組織「大学教育統括管理運営機構」の中核を担う教員の公募を男女共同参画の精神に則って行った。